



大阪南東ブロック 東住吉支部
いしのでんき
代表 石野 隆

東住吉は名前の通り住吉さんからきています。大阪市が成立した明治22年（1889年）には大阪市に編入されず住吉郡からのち東成郡になり、大正14年（1925年）に住吉区として大阪市に。昭和18年（1943年）に住吉区から分区し東住吉区が生まれ、昭和49年（1974年）に平野区が分かれて今の形になりました。住吉の東という名前がある通り西暦200年代に活躍した神功皇后とゆかりのある住吉神社の成立からの歴史が残り、東住吉には変わった地名が多いです。

大阪の難読地名としても有名な住道矢田(すんじやた)は、大東市の住道(すみのどう)と同じ漢字を使いながら成立した歴史が違い、もともとは須牟地(すむち)という地名で住むに適した地からかと思われま。この地に大陸からの来訪者が訪れる港となっていた住吉大社と都のある奈良を結ぶ磯齒津道(しはつみち)ができて住吉へ至る道として住道と漢字を当てて読みが訛って今の住道矢田が成立しました。



ここの中臣須牟地神社(なかとみすむちじんじや)や須牟地廃寺、松原市の天美の地名の由来になっている東住吉区の阿麻美許曾神社(あまみこそじんじや)などに中臣氏の先祖が祭られていて、中臣氏と縁がある場所であるといえます。



鷹合(たかあい)という地名は仁徳天皇の御代に依羅屯倉(よさみのみやけ)の阿弭古(あびこ)（住吉区の子孫の由来）が鳥を捕まえ天皇へ献上し、その鳥が鷹であって飼育するといいと酒君(さけきみ)という人が言うのでその酒君に鷹を飼育する鷹甘部(たかかいべ)を設置し鷹甘(たかかい)が訛って鷹合(たかあい)になったといわれています。



湯里は温泉が湧いていて昔は湯屋島と呼ばれていてそれが後に湯里になりました。針中野(はりなかの)は元中野村と砂子村で、中野鍼(なかのはり)という江戸時代より開業していた有名な鍼灸院が、近鉄電車の前身である大阪鉄道の開通に尽力し、そのお礼として最寄駅を針中野にし、それが地名になりました。桑津は「津」という名が表しているようにもともと港があった場所で、ここに応神天皇の御代に日向の国（今の宮崎県）より髪長媛と呼ばれる女性を迎え、当時は大鷦鷯尊(おおさざきのみこと)であった仁徳天皇が彼女を見初めて妃に迎えたといわれています。

杭全(くまた)は平野の杭全神社(くまたじんじや)が有名ですので平野区かと思いきや、町名としては東住吉区になります。由緒は諸説ありますが、杭(くい)を全(まった)くたくさん打ったというところから杭全となったといわれています。こういった歴史も古い東住吉。古くから住んでいる人も、新しく住んだ人もわが街を愛し、盛り上げていこうといるんな活動をしています。

